

中間報告の概要

1 身体障害者

(1) [前職] 具体的な離職理由

「障害・病気のため」が49.8%と最も多く、次いで「業務遂行上の課題あり」が9.0%、「労働条件があわない」が8.2%となっている。

(2) [前職] 勤続期間

10年以上が38.6%と最も多く、次いで1～3年未満が19.6%、5～10年未満が16.8%となっている。

(3) [前職] 離職を防ぐことができたと考えられる職場での措置や配慮

「特になし」が44.2%と最も多いが、具体的な措置や配慮（こういう措置や配慮があれば離職しなかった）としては、「能力が発揮できる仕事への配置」が15.3%、「調子の悪いときに休みをとりやすくする」が14.4%となっている。

2 知的障害者

(1) [前職] 具体的な離職理由

「業務遂行上の課題あり」が22.2%と最も多く、次いで「人間関係の悪化」が21.0%、「障害・病気のため」が18.5%となっている。

(2) [前職] 勤続期間

1～3年未満が24.0%と最も多く、次いで1～3か月未満が16.5%、10年以上が15.9%となっている。

(3) [前職] 離職を防ぐことができたと考えられる職場での措置や配慮

「特になし」が29.5%と最も多いが、具体的な措置や配慮（こういう措置や配慮があれば離職しなかった）としては、「職場でのコミュニケーションを容易にする手段や支援者の配置」が24.2%と多く、次いで「能力が発揮できる仕事への配置」が23.2%となっている。

3 精神障害者

(1) [前職] 具体的な離職理由

「障害・病気のため」が61.3%と最も多く、次いで「人間関係の悪化」が13.2%、「業務遂行上の課題あり」が8.6%となっている。

(2) [前職] 勤続期間

1～3年未満が26.4%と最も多く、次いで10年以上が14.1%、6か月～1年未満が12.6%となっている。

(3) [前職] 離職を防ぐことができたと考えられる職場での措置や配慮

「調子の悪いときに休みをとりやすくする」が35.7%と最も多く、次いで「特になし」が24.6%、「職場でのコミュニケーションを容易にする手段や支援者の配置」が18.1%となっている。

4 発達障害者

(1) [前職] 具体的な離職理由

「障害・病気のため」が40.7%と最も多く、次いで「業務遂行上の課題あり」が23.7%、「人間関係の悪化」が20.1%となっている。

(2) [前職] 勤続期間

1～3年未満が32.3%と最も多く、次いで1～3か月未満が16.5%、6か月～1年未満が13.2%となっている。

(3) [前職] 離職を防ぐことができたと考えられる職場での措置や配慮

「職場でのコミュニケーションを容易にする手段や支援者の配置」が34.9%と最も多く、次いで「能力が発揮できる仕事への配置」が32.4%、「業務遂行の支援や本人、周囲に助言する者等の配置」が25.5%となっている。